

自分を好きになる

発行日 平成31年 3月13日

◎3学期終業式 校長講話より

21世紀に生きる君たちへ～司馬遼太郎～

私は歴史小説が好きで、その中でも司馬遼太郎さんが書いた歴史小説をたくさん読みました。先日家にある司馬遼太郎さんの本を数えてみると120冊以上ありました。

司馬遼太郎さんは、1923年（大正12年）8月7日大阪府大阪市に生まれ、第2次世界大戦を体験しました。戦争中は、戦車に乗っていたそうです。戦後、新聞社に入社し、その頃から小説を書くようになりました。小説は主に歴史小説が多いのですが、NHK大河ドラマの原作となった作品数は最も多く、坂本竜馬を描いた「竜馬がゆく」をはじめ、NHKスペシャルドラマの「坂の上の雲」を含めると7作品もあります。

その中に「21世紀に生きる君たちへ」という本があります。この本です。この本は、日本語で書かれたものを英語訳され、世界でも読まれています。司馬さんは20世紀の終わり1996年（平成8年）2月12日に亡くなりましたが、生きていた間に、「21世紀に生きる君たちへ」という本を通して21世紀の今を生きる皆さんにメッセージを残しています。一部を紹介します。



君たちは、いつの時代でもそうであったように、自己を確立せねばならない。「自分に厳しく、相手にはやさしく。」という自己を。そして、「すなおでかしこい自己」を。

21世紀においては、特にそのことが重要である。21世紀にあっては、科学と技術がもっと発達するだろう。科学・技術が、こう水のように人間をのみこんでしまってはならない。川の水を正しく流すように、君たちのしっかりした自己が、科学と技術を支配し、よい方向に持って行ってほしいのである。

私は「自己」ということをしきりに言った。自己といっても、自己中心におちいつてはならない。人間は、助け合って生きているのである。

人間は、社会をつくって生きている。社会とは、支え合う仕組みということである。

原始時代の社会は小さかった。家族を中心とした社会だった。それがしだいに大きな社会になり、今は、国家と世界という社会をつくり、たがいに助け合いながら生きているのである。

自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつくられていない。このため、助け合う、ということが、人間にとって、大きな道徳になっている。

助け合うという気持ちや行動のものととは、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることにしてもいい。やさしさと言いかえてもいい。

「いたわり」「他人の痛みを感じること」「やさしさ」 みな似たような言葉である。

この三つの言葉は、もともと一つの根から出ているのである。根といっても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけなければならないのである。

その訓練とは、簡単なことである。例えば、友達がころぶ。ああ痛かっただろうな、と感じる気持ちを、そのつど自分の中でつくりあげていきさえすればよい。

この根っこの感情が、自己の中でしっかり根づいていけば、他民族へのいたわりという気持ちもわき出てくる。君たちさえ、そういう自己をつくっていけば、21世紀は人類が仲よしで暮らせる時代になるのである。

鎌倉時代の武士たちは、「たのもしさ」ということを、大切にしてきた。人間は、いつの時代でもたのもしい人格を持たねばならない。人間というのは、男女とも、たのもしくない人格に魅力を感じないのである。

もう一度くり返そう。さきに私は自己を確立せよ、と言った。自分に厳しく、相手にはやさしく、とも言った。いたわりという言葉も使った。それらを訓練せよ、とも言った。それらを訓練することで、自己が確立されていくのである。そして、「たのもしい君たち」になっていくのである。

以上のことは、いつの時代になっても、人間が生きていくうえで、欠かすことができない心がまえというものである。

君たち。君たちはつねに晴れあがった空のように、たかだかとした心を持たねばならない。

同時に、ずっしりとたくましい足どりで、大地をふみしめつつ歩かねばならない。

私は、君たちの心の中の最も美しいものを見続けながら、以上のことを書いた。

書き終わって、君たちの未来が、真夏の太陽のようにかがやいているように感じた。

君たちは今、21世紀に生きています。今、様々な事件や事故が起き、不安定な社会の様子が報道されています。だからこそ、君たちには、自己を確立し、新しい社会の変化に惑わされることなく、しっかりと社会の変化に対応し、乗り切っていける力の身に着けてほしいと願っています。

今日は3学期終業式。1年の締めくくりの日です。4月には1・2年生は進級し、そして3年生は新しい進路で歩み始めます。新しい年度が始まっても、司馬さんのメッセージにあるように「自分に厳しく、相手にはやさしく、いたわりを心掛けて」自己を確立させる訓練をしてほしいと思います。

明日はいよいよ卒業式です。学校にとって、3年生にとって1年で一番大切な日です。明日は、**最高の卒業式**を全校で作り上げましょう。以上で校長講話を終わります。

◎「受験は電車」

3月5日の後期選抜事前指導で、教頭先生のお話にあった言葉です。行き先を告げれば、何の心配もなく目的地に着けるタクシーとは違い、**目的地の異なる電車を自分で選択し、間違いなく乗り込み、下車駅で降り、確実にたどり着く。**受験者全員が、希望する行き先に

立つ姿を思い描くことができたことと思います。学年主任の庄村先生の「がんばれ！」が、わずかに残った不安も吹き飛ばしました。職員一同、吉報を祈っています。



◎BBCM 復活？



一生懸命なあまり、けが人の続出する危険性があるバスケット。奈良にいる望月先生の唯一の心配事でしたが、元気よく、品よく試合が進行していきました。もうすぐ先輩になるバスケット部員は、男女ともさすがの

動きでチームをリードします。公平な審判にも努めていました。どのクラスも精いっぱいの声援を送り、1学年としての有終の美を飾る思い出となりました。



◎新たな歴史の1ページの修学旅行



3月6日に2学年が修学旅行に出発しました。結団式では、「平成最後の修学旅行と2学年で行く最初の修学旅行」（隊長の校長先生から）と聞いて、かつての修学旅行以上に意義深い修学旅行になると学年全体の気が引き締まりました。

心配された天候も大きく崩れることはなく、参加者全員、疲れを隠

すはちきれんばかりの笑顔で帰ってきました。



◎放課後学習 感謝の会

3月11日（月）に放課後学習感謝の会が行われました。今年度は、三年生の受験勉強だけでなく、全校生徒を対象に行われ、地域企業の若手社



員の方や町内の教員 OB の方を講師として迎えました。講師の皆様には、学校からの感謝状と生徒一人一人の感謝の気持ちをまとめた冊子を贈呈させていただきました。

◎3年生を送る会

3月12日（火）に3年生を送る会が行われました。感謝の気持ちを、1年生は「小さな恋の歌」、2年生は「未来」の合唱で、3年生に贈りました。3年生からは、「友～旅立ちの時～」の合唱を「来年の坂中を任せたぞ」というエールとして演奏してもらいました。体育館中に素敵な歌声が響きわたりました。修学旅行と並行しての準備でしたが、新しい生徒会役員が中心となり、企画・運営をしました。



いよいよ明日は卒業証書授与式です。義務教育の集大成として、今まで同様、先輩としての手本の姿を期待しています。ご卒業、おめでとうございます。

【連 絡】

生徒登校日について

3月28日（木）は生徒登校日です。新年度の準備（教室移動など）を行い、新2・3年はクラス発表があります。また、当日の夜は、新クラスの役員決めが行われます。駐車場につきましては、いつもご協力いただいて感謝しております。極力乗り合いか、徒歩、自転車での来校のご配慮をお願いします。詳しくは、各学年学級から出される学年通信や学級通信でご確認ください。



入学式 日 程

新2・3年生登校	1 2 : 2 0
・ 清掃	1 2 : 2 5 - 1 2 : 4 0
・ 2 , 3 年入場	1 2 : 4 5 - 1 2 : 5 0
・ 2 , 3 年歌練習	1 2 : 5 0 - 1 3 : 0 5
・ 入学式	1 3 : 3 0 - 1 4 : 1 5
・ 始業式	1 4 : 3 5 - 1 5 : 1 0
・ 学級活動	1 5 : 1 5 - 1 6 : 1 5
・ 生徒下校	1 6 : 2 0

登校：8：15 持ち物：上履き 手ぬぐい （ジャージ登校可。通学用カバン不要。）

保護者の皆さま、この一年間、本校の教育活動に対してご理解ご協力を賜りました。心より感謝いたします。来年度も何卒よろしくお願い申し上げます。